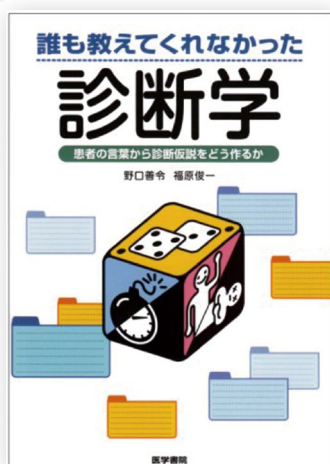




今月の連載関連本



誰も教えてくれなかった診断学

患者の言葉から診断仮説をどう作るか

野口善令、福原俊一＝著

本体 3,000 円＋税／232 頁／医学書院／2008

連載「野獣のリアル勉強法」(p.679)の今月の執筆者・板金広先生が、「今まで一番勉強になった本」にあげた1冊。同連載第2回(2月号 p.258)の継仁先生も、同じく本書をあげていました。

ベテラン医師の診断への道筋は、初期研修医のそれとどのように違うのか？本書はまだ十分な臨床経験を積んでいない医師を対象に、「カード」を想定した鑑別診断法を切り口に、「頻度・確率」、「時間」、「アウトカム」の3つの軸を意識しながら診断を下すという、これまで“誰も教えてくれなかった”診断法を伝授する。